

日本遺産

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～

北前船が栄えた時代、直江津は「^{いままち}今町」と呼ばれ、高田藩の外港である今町の港には北前船が寄港しました。北前船が寄港したことによってさまざまな^{なりわい}生業が生まれ、直江津のまちは大いににぎわいました。

詳しくは



北前船で栄えた風情が色濃く漂う直江津のまち

直江津のまちを歩くと、北前船がもたらした^{しゅくだにいし}笏谷石や御^み影石が町中に多く見られます。

笏谷石は福井県福井市の^{あすわ}足羽山一帯で産出された石で、御影石は瀬戸内地方で産出された石です。船の転覆を防ぐための重しとして北前船の船底に積まれ、日本海側の各湊町に運ばれました。

各所で見られる笏谷石

笏谷石は越前青石ともいわれ、加工しやすく耐火性に優れています。水に濡れると美しい緑色になるため、雨の日に直江津のまちを歩くと見つけやすく、^{せんぞういん}泉蔵院の六地藏や^{しんぎようじ}真行寺の経蔵の基礎部分など、直江津の各所で見るができます。五智国分寺では、経蔵の土台石や、境内を出た東側にある^{ようやしみず}養翁清水の縁石も笏谷石でできています。他にどんなところに笏谷石が使われているか、ぜひ探してみてください。



▲直江津の町並み



▲笏谷石製の六地藏（泉蔵院）



▲笏谷石でできている経蔵の基礎部分（真行寺）
墓地には、江戸時代の廻船業者などの大きな墓石があります。



▲養翁清水（五智国分寺）
笏谷石の縁石は明治時代のもので、水をくむ際に足を乗せていたと思われる部分は、すり減っています。

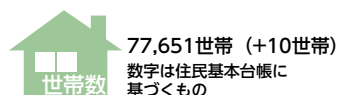
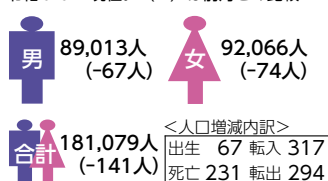
広報対話課から

(☎025-526-5111)

「広報上越10月号」は、9月19日㊥・20日㊦に各町内会へお届けし、各世帯にお配りします。届かない世帯の人は、広報対話課または、各総合事務所へご連絡ください。

上越市の人口・世帯数

令和6.8.1現在。()は前月との比較



表紙のことは「大塚いちお展」へんてこで特別！

表紙は大塚さんが生み出した『コッシー』と『ウェルモ』です。お話を聞いたとき、絵を描くことの楽しさを笑顔で話されていた姿が印象的でした。

今回の企画展では、そんな大塚さんが創作した多くの作品が美術館のさまざまなところに展示されます。美術館に行って、あなたのお気に入りの作品を探してみてください。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。